

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

25年4月の牛肉生産量はわずかに減少、牛肉卸売価格は高値で推移

25年4月の牛肉生産量は前年同月比2.7%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年4月の牛と畜頭数は257万2000頭（前年同月比5.8%減）とやや減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は397.8キログラム（同3.4%増）とやや増加したことで、同月の牛肉生産量は101万7000トン（同2.7%減）とわずかな減少にとどまった（図1）。2025年の牛肉生産量についてUSDAは、メキシコからの肥育もと牛の輸入停止^{（注1）}の影響などを踏まえ、1198万5000トン（前年比2.1%減）とわずかな減少を見込んでいる。

また、4月のフィードロット導入頭数は

161万3000頭（前年同月比2.6%減）、出荷頭数は182万5000頭（同2.5%減）と、いずれもわずかに減少した。この結果、同年5月1日時点のフィードロット飼養頭数は1137万6000頭（同1.5%減）となった。

（注1）米国農務省動植物衛生検査局（USDA/APHIS）は2025年5月11日、メキシコからの生体牛輸入の再度停止を発表した。USDAは同停止措置が続いた場合、25年以降に牛肉生産量の減少が見込まれるとしている。詳細は海外情報「2025年、26年の牛肉生産量は減少見込み（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004123.html）をご参照ください。

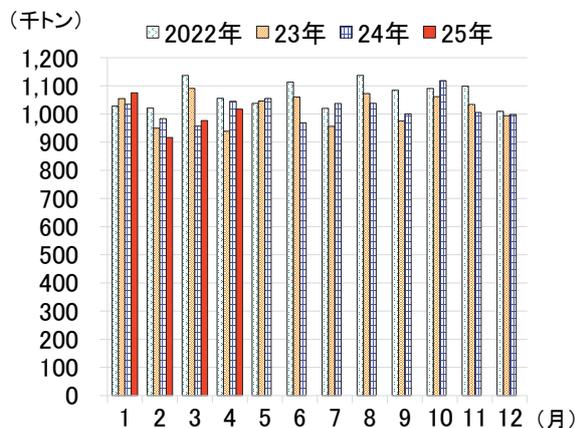
25年4月の牛肉卸売価格、前年同月比12.3%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年4月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は牛肉生産量の減少などから、100ポンド当たり335.73米ドル（1キログラム当たり1072円：1米ドル＝144.87円^{（注3）}、前年同月比12.3%高）と前年同月をかなり大きく上回り、前月比でも3.9%高とやや上昇した（図2）。同月の肥育牛価格は、同209.99米ドル（同671円、同13.0%高）と前年同期をかなり大きく上回り、2025年は前年を上回る水準で推移している（図3）。

（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。

（注3）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

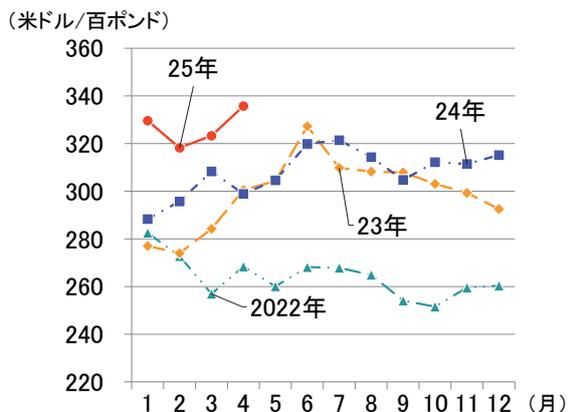
図1 牛肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

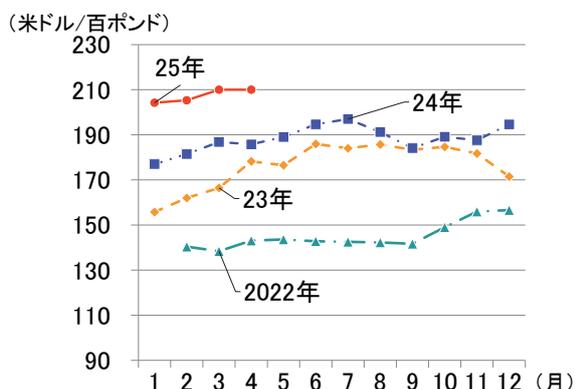
注：枝肉重量ベース。

図2 牛肉卸売価格の推移



資料：USDA 「Livestock and Meat Domestic Data」
 注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。
 注2：チョイス級、600～900ポンド。

図3 肥育牛価格の推移



資料：USDA 「Livestock and Meat Domestic Data」
 注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。
 注2：2022年1月の値は、N/A値。

25年3月の牛肉輸出量は前年同月比0.1%減

USDA/ERSによると、2025年3月の牛肉輸出量は11万6012トン（前年同月比0.1%減）と前年同月並みとなり、同年第1四半期（1～3月）の累計では、国内牛肉価格の高騰などから32万3562トン（前年同期比2.7%減）とわずかに減少した（表）。輸出先別に見ると、日本向けは2万6124トン（同0.5%増）、メキシコ向けは1万2149トン（同5.7%増）といずれも増加した。一方、韓国向けは2万5725トン（同5.8%減）、中国向けは1万8939トン（同1.9%減）といずれも減少した。中国向けについては、中国海関総署（GACC）による米国内の中国向け牛肉輸出施設再認定の動きが見られておらず^{（注4）}、今後の輸出への影響が懸念されている。

（注4）5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。詳細は海外情報「米国農務省、停止状態の中国向け食肉輸出認可施設の登録更新を公表（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004076.html）をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年3月	25年3月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	25年	前年同期比 (増減率)
					(1～3月)	
日本	26,003	26,124	0.5%	22.5%	72,405	▲4.0%
韓国	27,321	25,725	▲5.8%	22.2%	71,796	▲1.1%
中国	19,314	18,939	▲1.9%	16.3%	53,321	2.0%
メキシコ	11,494	12,149	5.7%	10.5%	35,372	▲10.0%
カナダ	8,817	8,469	▲3.9%	7.3%	26,582	4.6%
台湾	5,365	6,992	30.3%	6.0%	16,712	▲2.3%
香港	2,860	2,920	2.1%	2.5%	8,337	▲11.8%
その他	14,995	14,695	▲2.0%	12.7%	39,036	▲4.4%
合計	116,169	116,012	▲0.1%	100.0%	323,562	▲2.7%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」
 注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 大西 未来）

豪州

輸出需要を背景に若齢牛価格は今期最高値を記録、雌牛と畜割合は上昇

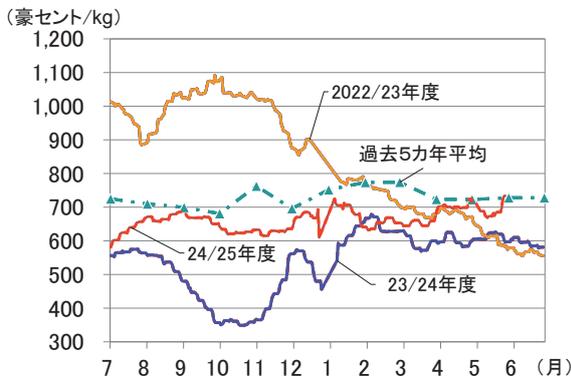
25年5月若齢牛価格、今年度の最高値を記録

豪州食肉家畜生産者事業団 (MLA) によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、直近2025年5月29日時点で1キログラム当たり734豪セント (694円：1豪ドル=94.58円^(注1)) となり、2024/25年度 (7月～翌6月) の最高値を記録した (図1)。

現地報道によると、南部地域 (主に南オーストラリア (SA) 州、ビクトリア (VIC) 州) では干ばつが続く中、主要肉牛生産地域であるクイーンズランド (QLD) 州やニューサウスウェールズ (NSW) 州では適度な降雨により牧草の生育が良好なため、牧草肥育農家の導入意欲が増していること、また、輸出需要によりフィードロットの稼働率が高まっていること^(注2) が要因とされている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

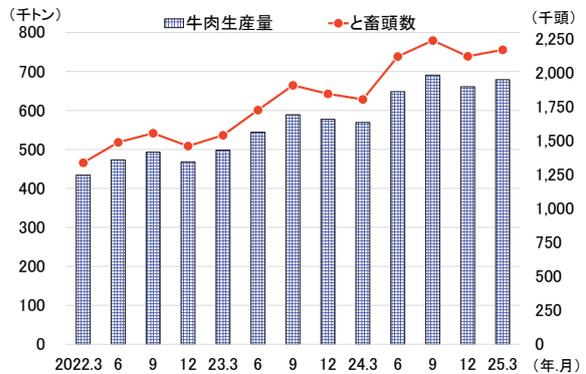
注2：東部地区若齢牛指標 (EYCI) 価格は、東部3州 (クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州) の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

(注2) 海外情報「2025年3月のフィードロット飼養頭数、輸出需要などで拡大 (豪州)」 (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004114.html) をご参照ください。

成牛と畜頭数、牛肉生産量はいずれも増加、年記録更新に順調な滑り出し

豪州統計局 (ABS) が2025年5月に公表した統計によると、25年1～3月期の牛のと畜頭数は、217万頭 (前期比2.2%増)、牛肉生産量は67万9048トン (同2.7%増) といずれも増加した (図2)。雌牛と畜割合 (FSR) は52.7%に上昇し、繁殖雌牛の出荷による頭数削減が進むとされる指標の47%を8期連続で超えている (図3)。複数の

図2 牛肉生産量およびと畜頭数の推移

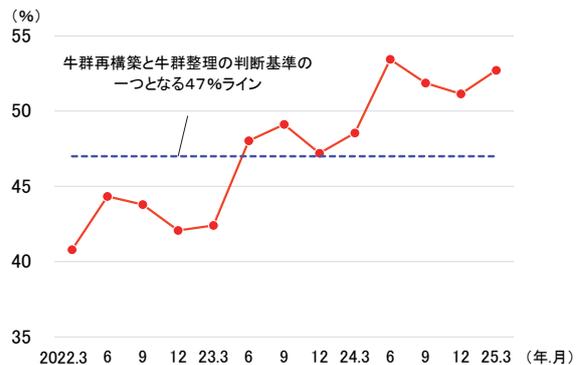


資料：ABS

注1：四半期ごとの数値。

注2：生産量は枝肉重量ベース、と畜頭数は子牛を除く。

図3 雌牛と畜割合 (FSR) の推移



資料：ABS

注：四半期ごとの数値。

農業アナリストによると、FSRの上昇は南部地域での干ばつによる牛群整理の進展を示しているが、他方で、若く能力のある繁殖雌牛が順次導入されており、より生産性の高い牛群の構築が進んでいるとされている。

なお、MLAの見通しでは、2025年6月30日時点の牛群頭数は3010万頭（前年比1.4%減）と小幅な減少に留まると予測されており、急激な牛群縮小局面には至らないと分析されている。

また、直近の動きとして、週間成牛と畜頭数は高水準で推移しており、5月第4週は15万2569頭（前年同週比9.5%増）と、堅調

な輸出需要を背景に前月に続き15万頭超えを記録している（図4）。

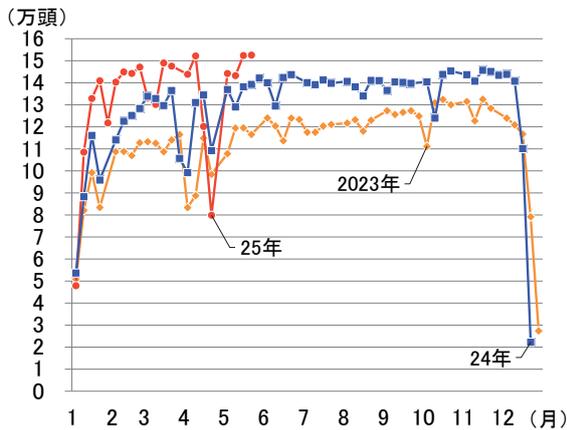
25年4月牛肉輸出量、4月の過去最高値を更新

豪州農林水産省（DAFF）によると、2025年4月の牛肉輸出量は12万7172トン（前年同月比20.7%増）と大幅に増加した。単月の数値としては過去4番目の輸出量となり、4月としては2015年に記録した過去最高値を更新した（表）。

4月の輸出量を輸出先別に見ると、特に米国、中国向けが顕著に増加した。米国向けは3万7213トン（同36.5%増）と大幅に増加し、引き続き堅調な需要を示した。4月5日以降に豪州から輸出された牛肉には10%の追加関税が課されているが、輸出量への影響は今のところ見られていない。一方で、現地報道によると、4月初めの駆け込み需要や事前成約分の荷動きがあることから、関税の影響を正確に評価するためには、5月以降の数量を確認する必要があるとされている。

また、中国向けも2万1572トン（同44.9%増）と輸出先別で最大の伸びを記録

図4 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA [National Livestock Reporting Service]
 注1：成牛のみ（子牛は含まない）。
 注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2024年 4月	25年 4月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～4月)	
				前年同期比 (増減率)	
米国	27,257	37,213	36.5%	129,291	35.5%
中国	14,888	21,572	44.9%	78,116	27.6%
日本	21,731	21,444	▲1.3%	76,083	▲8.2%
韓国	15,785	20,076	27.2%	64,774	15.1%
東南アジア	13,095	12,726	▲2.8%	40,920	▲1.6%
中東	3,613	3,031	▲16.1%	11,074	▲5.6%
EU	1,285	1,593	23.9%	5,244	26.2%
その他	7,713	9,517	23.4%	32,644	16.2%
輸出量合計	105,367	127,172	20.7%	438,146	14.9%

資料：DAFF
 注1：船積重量ベース。
 注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。
 注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

した。現地報道によると、米中の貿易摩擦により、米国内約400の中国向け牛肉加工施設の輸出認可登録の更新が停止されており、豪州の穀物肥育牛肉が米国産牛肉の不足分を補っているとされている。一方で、複数の農業アナリストは、中国の牛肉需要の継続性は

不透明であり、輸出認可登録の更新や経済の減速といった要素により状況は変わり得ることから、食肉業界はその動向を注視していくべきと分析している。

(調査情報部 国際調査グループ)

中国

牛肉生産量は引き続き増加も価格はやや上昇、輸入量は減少

25年第1四半期の牛肉生産量、前年同期比2.7%増

中国国家统计局によると、2024年の牛肉生産量は、生乳価格の下落から乳用牛の淘汰が進んだことなどにより、前年比3.5%増の779万トンとなった(図1)。また、25年第1四半期(1~3月)の牛肉生産量は、引き続き酪農部門からの牛の供給が増えたことで、前年同期比2.7%増の191万トンとなった。

25年の牛肉生産量について中国農業農村部は、同年4月に公表した「中国農業展望報告(2025-2034)」(注1)(以下「展望報告」という)の中で、24年の牛肉価格の下落などを受けて畜産農家の廃業が進んだことなど

から、750万トン(前年比3.7%減)とやや減少すると予測している。

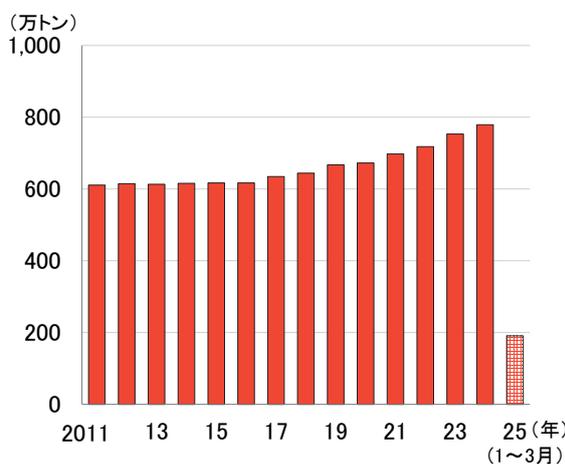
(注1) 海外情報「中国農業展望報告(2025-2034)」を发表(牛肉編)(中国) (https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004143.html) をご参照ください。

25年5月の牛肉卸売価格、前年同月比3.5%安

2024年の牛肉卸売価格は、牛肉生産量の増加や安価な輸入牛肉の輸入量増加などを背景に下落基調で推移した。この傾向は25年3月まで続いたが、4月以降は上昇傾向に転じ、5月の牛肉卸売価格は1キログラム当たり61.5元(1249円: 1元=20.31円(注2)、前年同月比3.5%安)となった(図2)。

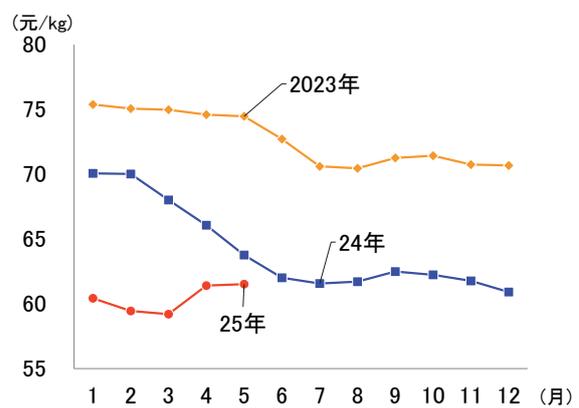
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

図1 牛肉生産量の推移



資料: 中国国家统计局

図2 牛肉卸売価格の推移



資料: 中国商務部

この要因について中国農業農村部は、25年5月に公表した「農産物需給動向分析月報(2025年4月)」の中で、輸入牛肉の価格が上昇して価格優位性が低下し、国産牛肉の引き合いが強まったためとしている。

25年1～4月の牛肉輸入量、冷蔵・冷凍ともに二桁の減少率

2024年の牛肉輸入量を見ると、輸入の大部分を占める冷凍牛肉は280万2981トン(前年比4.9%増)とやや増加した(表1)。また、冷蔵牛肉の輸入量は7万1736トン(同9.7%増)とかなりの程度増加した(表2)。一方、25年1～4月の輸入量を見ると、冷凍

牛肉は86万7377トン(前年同期比10.5%減)とかなりの程度、冷蔵牛肉は2万3592トン(同11.6%減)とかなり大きく、それぞれ減少した。

2025年の牛肉輸入量(冷凍および冷蔵)について展望報告では、(1)輸入牛肉の価格優位性の低下(2)中国商務部の輸入牛肉に対するセーフガード調査^(注3)の影響(3)中国政府の米国産牛肉に対する追加関税の影響—などにより、170万トン(40.8%減)と大幅な減少が予測されている。

(注3) 海外情報「中国商務部、輸入牛肉に対するセーフガード措置実施の調査を開始(中国)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004023.html)をご参照ください。

表1 冷凍牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～4月)	前年同期比
						(増減率)
ブラジル	858.5	1,105.2	1,177.1	1,340.0	398.9	▲5.4%
アルゼンチン	461.7	488.2	524.9	592.4	148.8	▲26.2%
ウルグアイ	352.9	356.1	274.1	242.8	72.4	▲31.0%
ニュージーランド	191.7	206.2	196.9	175.1	46.8	▲29.6%
米国	130.7	162.0	137.9	144.1	38.2	▲2.0%
豪州	138.6	159.3	191.7	118.3	93.1	36.2%
その他	145.2	160.9	169.4	190.2	69.3	3.2%
合計	2,279.3	2,637.8	2,671.9	2,803.0	867.4	▲10.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0202。

表2 冷蔵牛肉の輸入先別輸入量の推移

(単位：千トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～4月)	前年同期比
						(増減率)
豪州	24.2	23.2	34.6	41.0	14.1	▲9.7%
米国	13.2	16.4	18.2	19.8	6.4	▲2.8%
ニュージーランド	10.1	9.7	9.1	6.4	1.9	▲39.6%
アルゼンチン	3.5	2.3	2.1	2.2	0.8	5.4%
ウルグアイ	2.3	0.1	0.5	0.9	0.1	▲65.5%
ロシア	0.2	0.4	0.8	0.9	0.1	▲68.1%
その他	0.01	0.003	0.12	0.6	0.3	77.4%
合計	53.6	52.1	65.4	71.7	23.6	▲11.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：製品重量ベース。

注2：HSコード0201。

(調査情報部 平山 宗幸)

豚肉

EU

豚枝肉卸売価格が上昇基調、豚肉輸出量は中国向けが大幅増

25年2月のEU豚肉生産量、前年同月比1.3%増

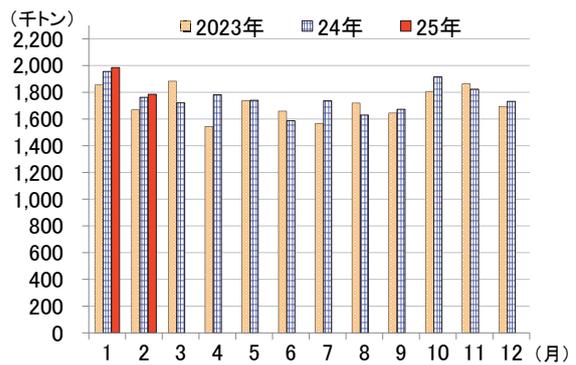
欧州委員会によると、2025年2月の豚と畜頭数は1813万8240頭（前年同月比0.7%減）とわずかに減少したものの、1頭当たり枝肉重量の増加（同2.0%増の98.39キログラム）から、同月の豚肉生産量（EU27カ国）は、178万4610トン（同1.3%増）とわずかに増加した（図1）。

同月の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、スペインでは、前年同月比3.9%増となったものの（表1）、豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の流行などにより生産性が低下する中、オランダなどからの子豚生体の輸入頭数が過去最高となるなど、国内外のスペイン産豚肉の需要に対応すべく肥育もと豚を確保

する動きが顕著になっている。一方、オランダでは政府による廃業支援の影響などにより同11.4%減となった（注1）。

（注1）海外情報「オランダ、政府による畜産農家への廃業支援などで豚飼養頭数が減少（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004044.html）をご参照ください。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

（単位：千トン）

国名	2024年 2月	25年 2月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～2月)	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
スペイン	435	452	3.9%	955	1.7%
ドイツ	346	354	2.4%	739	2.0%
フランス	173	165	▲4.4%	359	▲1.7%
ポーランド	151	153	1.5%	332	4.3%
オランダ	125	111	▲11.4%	233	▲10.8%
デンマーク	118	117	▲0.8%	247	1.5%
イタリア	99	109	9.7%	228	8.6%
その他	315	323	2.6%	675	3.2%
合計	1,762	1,785	1.3%	3,769	1.4%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

25年4月の豚枝肉卸売価格、ドイツの口蹄疫封じ込めにより上昇基調

欧州委員会によると、2025年4月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比8.0%安の1キログラム当たり2.01ユーロ（332円：1ユーロ＝165.07円^{（注2）}）となった（図2）。25年1月にドイツで発生した口蹄疫により、域内の豚肉需給が緩和するとの懸念から同価格は下落傾向で推移していたものの、3月12日に一部地域を除きドイツが

ワクチン非接種口蹄疫清浄地域となったこと^{（注3）}や、イースター需要などにより3月中旬から上昇に転じた。以降も上昇基調が継続し、直近5月12日の週は同2.08ユーロ（343円）となった。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

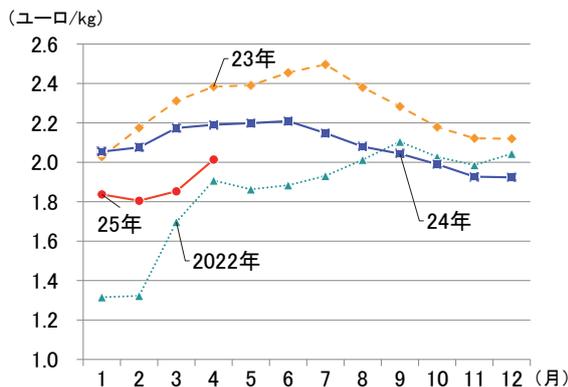
（注3）海外情報「スロバキアで口蹄疫が発生、EU域内で3カ国目（EU）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004072.html）をご参照ください。

25年3月の豚肉輸出量は前年同月比6.8%増、中国向けがけん引

欧州委員会によると、2025年3月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、18万1328トン（前年同月比6.8%増）とかなりの程度増加した（表2）。輸出先別に見ると、英国向け（同15.7%減）や日本向け（同13.4%減）はかなり大きく減少したものの、ブラジルや米国、カナダ^{（注4）}からの輸入量が減少した中国向け（同21.0%増）の大幅増がけん引した。

（注4）中国は2025年3月以降、米国産およびカナダ産豚肉に対して追加関税を措置している。

図2 豚枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注：EU（CLASS E）平均価格。

表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～3月)	
				前年同期比 (増減率)	
中国	35,038	42,411	21.0%	124,909	8.3%
英国	28,140	23,726	▲15.7%	77,205	▲3.2%
日本	27,192	23,538	▲13.4%	69,882	▲16.0%
韓国	20,474	22,080	7.8%	61,811	▲0.1%
フィリピン	10,942	9,872	▲9.8%	28,264	▲12.9%
豪州	6,080	6,549	7.7%	18,868	15.5%
その他	41,973	53,152	26.6%	150,219	19.1%
合計	169,839	181,328	6.8%	531,158	3.1%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

チリ

25年1～3月の豚肉生産量は1.3%増、輸出量は4.7%減

25年1～3月の豚肉生産量は前年同期比1.3%増

チリ農業省農業政策・調査局（ODEPA）によると、2025年1～3月の豚と畜頭数は139万頭（前年同期比0.6%増）、豚肉生産量は14万30167トン（同1.3%増）と、いずれも前年同期をわずかに上回った（図1）。

24年の豚肉生産量は、58万5386トン（前年比0.5%増）と前年をわずかに上回った。同国は飼料の多くを隣国のアルゼンチンなどから輸入しており、その価格動向が豚肉生産に影響している。チリが輸入している主要飼料原料となるトウモロコシの価格動向をみると、23年は下落傾向で推移し、同年9月には下げ止まった。さらに、それ以降も同水準で推移した結果、24年の年平均価格は1キログラム当たり0.24米ドル（35円：1米ドル＝144.87円^注、同17.2%安）と前年を大幅に下回った。一方で、24年の肉豚生産者販売価格は年平均で1キログラム当たり1.14米ドル（165円、同7.3%安）とかなり

の程度下落したことから、同年の豚肉生産量は微増程度になったと考えられる。

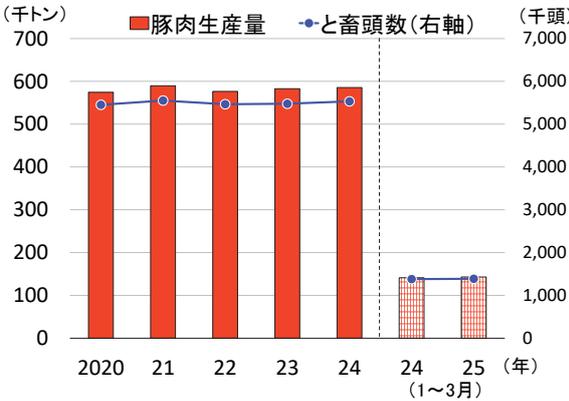
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末のTTS相場。

25年1～3月の豚肉輸出量は前年同期比4.7%減

2025年1～3月の豚肉輸出量は、4万6937トン（前年同期比4.7%減）と前年同期をやや下回った（図2、表）。輸出先33カ国中17カ国で輸出量が減少し、特に主要3カ国（中国、日本、韓国）向けは、最大の輸出先である中国向けが1万7171トン（同7.4%減）、次いで日本向けは8401トン（同9.1%減）、韓国向けは7997トン（同14.9%減）といずれもかなりの減少となり、これらが大きく影響した。

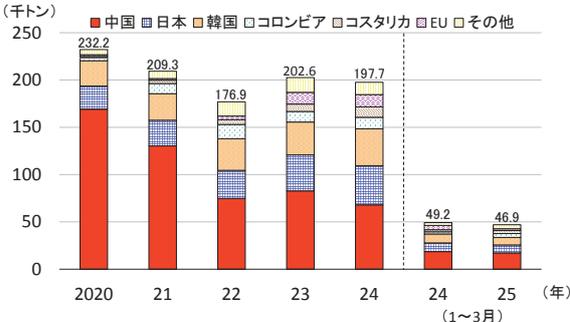
24年の豚肉輸出量は、19万7651トン（前年比2.4%減）と前年をわずかに下回った。日本向けは4万1445トン（同8.8%増）、韓国向けは3万8981トン（同12.3%増）と、

図1 豚肉生産量および豚と畜頭数



資料：ODEPA
注：枝肉重量ベース。

図2 豚肉輸出量の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

いずれも増加した一方、最大の輸出先である中国向けは6万7966トン（同17.9%減）と大幅に減少したことで、全体の輸出量は減少した。チリ食肉輸出協会（ChileCarne）によると、中国向け輸出量減少の一因は、中国国内の冷凍在庫量の増加にあるとされている。

25年2月1日、チリと欧州連合（EU）の間で暫定貿易協定（ITA）が発効された。これにより、EUがチリに対して設けている豚肉の関税割当枠が1万800トンから2万1200トンに引き上げられたため、今後EUへの輸出が促進されるものと期待される。

表 豚肉輸出量および輸出額の推移

国名	2024年（1～3月）			25年（1～3月）			前年同期比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/kg）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	18,545	23,814	1.28	17,171	26,841	1.56	▲7.4%	12.7%	21.7%
日本	9,242	37,743	4.08	8,401	33,850	4.03	▲9.1%	▲10.3%	▲1.3%
韓国	9,394	43,573	4.64	7,997	36,473	4.56	▲14.9%	▲16.3%	▲1.7%
コロンビア	2,302	6,017	2.61	4,054	10,699	2.64	76.1%	77.8%	0.9%
コスタリカ	2,133	6,836	3.21	3,239	10,613	3.28	51.9%	55.3%	2.2%
EU	4,615	15,230	3.30	1,860	7,401	3.98	▲59.7%	▲51.4%	20.6%
その他	7,627	24,061	3.15	6,075	19,663	3.24	▲20.3%	▲18.3%	2.6%
合計	49,243	142,044	2.88	46,937	138,139	2.94	▲4.7%	▲2.7%	2.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード0203。

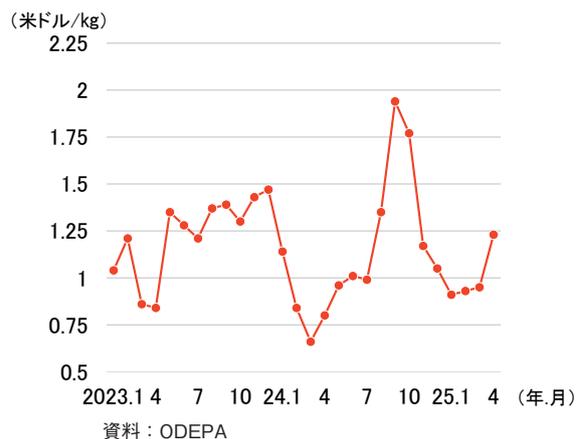
注2：輸出量は製品重量ベース。

25年4月の肉豚生産者販売価格は前年同月を大幅に上回る

2025年4月の肉豚生産者販売価格は、前年同月比53.8%高の1キログラム当たり1.23米ドル（178円）と前年同月を大幅に上回った（図3）。

24年の価格は、年明けは下落傾向から始まり、3月には年間最安値となる0.66米ドル（96円）を記録した。その後は上昇に転じて、半年間で価格が約3倍上昇し、9月には年間最高値となる1.94米ドル（281円）を記録したのち、再び下落した。

図3 肉豚生産者販売価格



（調査情報部 原田 祥太）

鶏肉

米 国

25年1～3月の鶏肉輸出量、ブラジル産との競合などで前年同期比減

25年4月の鶏肉生産量、前年同月比2.2%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2025年1～4月の鶏肉生産量は、生体重量の増加により703万9000トン（前年同期比1.1%増）とわずかに増加した（表1）。また、25年4月の鶏肉生産量は179万

4000トン（前年同月比2.2%増）とわずかに増加した。同年の鶏肉生産量についてUSDAは、孵化場における肉用鶏卵の導入数の減少を踏まえ前月予測から11万9000トン引き下げつつも、堅調な国内需要や飼料コストの低下から2155万1000トン（前年比1.1%増）と増産を予測している。

表1 鶏肉生産量の推移

項目	2024年 (1～4月)	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)	25年 4月	前年同月比 (増減率)
生産量（千トン）	6,962	7,039	1.1%	1,794	2.2%
処理羽数（百万羽）	3,116	3,117	0.0%	796	1.1%
生体重量（kg/羽）	2.96	2.99	1.0%	2.97	1.1%

資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]

注1：連邦食肉検査済みのもの。

注2：生産量は可食処理ベース（骨付き）。

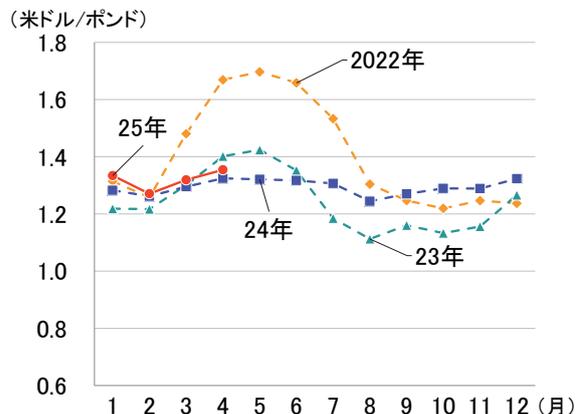
25年4月の鶏肉卸売価格、前年同月比2.3%高

USDA/ERSによると、2025年4月の鶏肉卸売価格は1ポンド当たり1.35米ドル（1キログラム当たり433円：1米ドル＝144.87円^注、前年同月比2.3%高）とわずかに上昇した（図1）。鶏肉生産量は前年同月比で増加しているものの、夏場のBBQシーズンが近づく中、高値で推移する牛肉の代替需要としての引き合いが強いことから上昇したとみられる。同月末の冷凍鶏肉在庫量は、32万5838トン（同1.0%増）とわずかに

増加した（図2）。

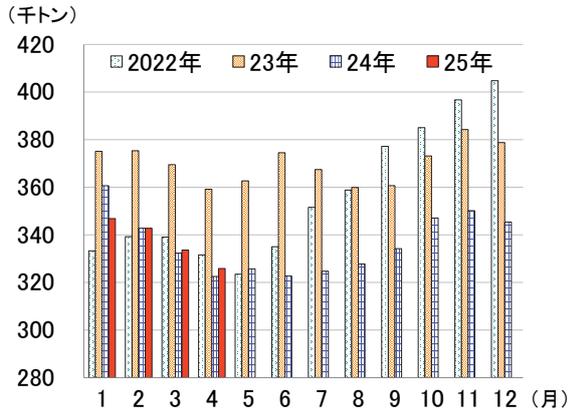
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

図1 鶏肉の卸売価格の推移



資料：USDA [Livestock and Meat Domestic Data]

図2 鶏肉在庫量の推移



資料：USDA「Cold Storage」
注：各月末在庫。

25年1～3月の鶏肉輸出量、前年同期比5.0%減

USDA/ERSによると、2025年3月の鶏肉輸出量は25万7963トン（前年同月比1.8%増）とわずかに増加したものの、25年1～3月累計では、安価なブラジル産との競合などから73万8421トン（前年同期比5.0%減）とやや減少した（表2）。25年の鶏肉輸出量についてUSDAは、前年比2.2%減の298万4000トンと見込んでいる。

表2 輸出先別鶏肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	シェア	25年 (1～3月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	55,012	57,358	4.3%	22.2%	179,186	▲0.1%
フィリピン	13,341	22,930	71.9%	8.9%	43,023	20.1%
キューバ	26,326	19,299	▲26.7%	7.5%	70,609	▲3.3%
カナダ	10,994	14,286	29.9%	5.5%	43,321	37.2%
グアテマラ	11,157	11,562	3.6%	4.5%	34,743	▲2.3%
ジョージア	9,259	8,785	▲5.1%	3.4%	17,500	▲21.9%
ベトナム	11,245	8,505	▲24.4%	3.3%	21,152	▲17.4%
アラブ首長国連邦	8,633	7,386	▲14.4%	2.9%	15,135	▲49.5%
ドミニカ共和国	4,757	6,690	40.6%	2.6%	19,157	33.5%
その他	102,591	101,163	▲1.4%	39.2%	294,596	▲10.7%
合計	253,313	257,963	1.8%	100.0%	738,421	▲5.0%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：製品重量ベース。
注2：もみじ（鶏足）を除く。

(調査情報部 小林 大祐)

ブラジル

24年の鶏肉生産量は過去最大

24年の鶏処理羽数および鶏肉生産量は前年をわずかに上回る

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2024年の鶏処理羽数は64億5552万羽

（前年比2.7%増）、鶏肉生産量は1364万3000トン（同2.4%増）と、いずれも前年をわずかに上回り、IBGEが1997年に統計を取り始めて以来、最大となった（図1）。これは、リアル安で推移した為替相場も

相まって輸出需要が堅調に推移したことに加え、国内のインフレ率上昇に伴い比較的安価な動物性たんぱく質である鶏肉の国内需要が増加したためとみられている。

25年1～4月鶏肉輸出量は前年同期比9.4%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2025年1～4月の鶏肉輸出量は171万3723トン（前年同期比9.4%増）と前年同期をかなりの程度上回った（表）。これは、世界のさまざまな国で発生している高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の影響により、ブラジル産鶏肉に対する需要が高まったためとみられている。

なお、輸出先別のシェア（割合）については、上位5カ国向けが減少した一方で、それ以外の国々への輸出は増加しており、輸出先の分散が進んだ形となった。

図1 鶏肉生産量および処理羽数の推移



資料：IBGE

表 輸出先別鶏肉輸出量および輸出額

国名	2024年 (1～4月)			25年 (1～4月)			前年同期比 (増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量	輸出額	単価
中国	177,010	383,705	2.17	192,358	455,133	2.37	8.7%	18.6%	9.2%
アラブ首長国連邦	159,606	317,241	1.99	150,084	301,846	2.01	▲6.0%	▲4.9%	1.2%
サウジアラビア	139,800	292,130	2.09	137,889	339,045	2.46	▲1.4%	16.1%	17.7%
日本	148,633	289,937	1.95	122,199	235,339	1.93	▲17.8%	▲18.8%	▲1.3%
南アフリカ	105,616	54,772	0.52	105,843	70,967	0.67	0.2%	29.6%	29.3%
フィリピン	84,360	68,713	0.81	95,701	81,670	0.85	13.4%	18.9%	4.8%
メキシコ	39,297	93,829	2.39	68,857	164,646	2.39	75.2%	75.5%	0.1%
韓国	58,666	109,837	1.87	64,969	121,030	1.86	10.7%	10.2%	▲0.5%
その他	654,115	1,100,268	1.68	775,822	1,317,558	1.70	18.6%	19.7%	1.0%
合計	1,567,103	2,710,434	1.73	1,713,723	3,087,234	1.80	9.4%	13.9%	4.2%

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

25年の鶏肉卸売価格は上昇傾向で推移

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、直近（2025年5月23日時点）のブラジルの鶏肉卸売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり8.63

レアル（219円：1レアル＝25.37円^{（注）}、前年同日比18.4%高）となった（図2）。24年の同価格は比較的安定して推移していたが、同年11月に入ると急騰し同8レアル台になり、以降も上昇傾向となった。25年2月には、国内需要の減少に伴い一時的に下落

したものの、堅調な輸出需要に支えられ、その後も上昇傾向で推移している。特に、4月は祝日が重なり、食肉処理場の操業日数が少なかったことで、国内市場の供給量が減少したことも価格上昇を後押しした。

図2 サンパウロ州鶏肉卸売価格（丸鶏・冷蔵）の日毎の推移



(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

商業用家さん飼養施設で高病原性鳥インフルエンザが発生

ブラジル農牧供給省（MAPA）は2025年5月15日、同国南部のリオグランデ・ド・スル州モンテネグロ市の家さん飼養施設で、HPAIの感染が確認されたことを公表した。同国では、23年に初めてHPAIの感染が野鳥および庭先養鶏の家さんで確認されたが、商業用の施設で確認されたのは今回が初めてとなる。

（調査情報部 原田 祥太）

牛乳・乳製品

米 国

25年3月の乳製品輸出、ホエイやバターが前年同月比で増加

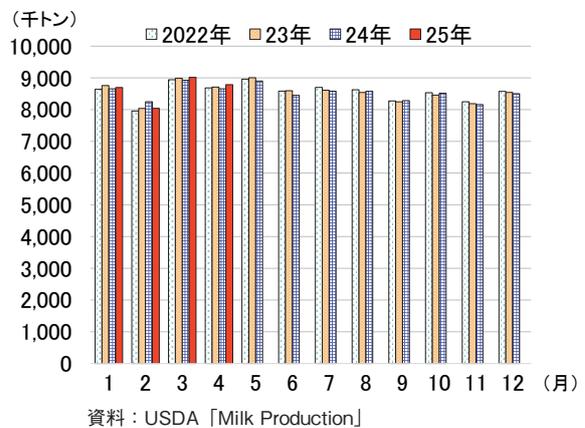
25年4月の生乳生産量は前年同月比1.5%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2025年4月の乳用経産牛飼養頭数は942万5000頭（前年同月比1.0%増）とわずかに増加した。各州では収益性の改善により乳用経産牛を保留する動きが見られており、主要生産州の一つであるテキサス州では、同7.8%増とかなりの程度増加した。

同月の生乳生産量は、乳用経産牛飼養頭数および1頭当たり乳量（同0.5%増）の増加により、878万6000トン（同1.5%増）と

わずかに増加した（図1）。

図1 生乳生産量の推移



25年4月のバターの卸売価格は前年同月比21.2%安

米国農務省農業マーケティング局 (USDA/AMS) によると、2025年4月のバター卸売価格は、生乳生産量や生乳に含まれる乳脂肪分の増加により需給が緩和し、1ポンド当たり2.32米ドル（1キログラム当たり740円：1米ドル＝144.87円^(注)、前年同月比21.2%安）と前年同月を大幅に下回った（図2）。同月の月末在庫量は、旺盛な輸出需要により15万3000トン（同6.8%減）とかなりの程度減少した（図3）。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2025年5月末TTS相場。

図2 バターの卸売価格

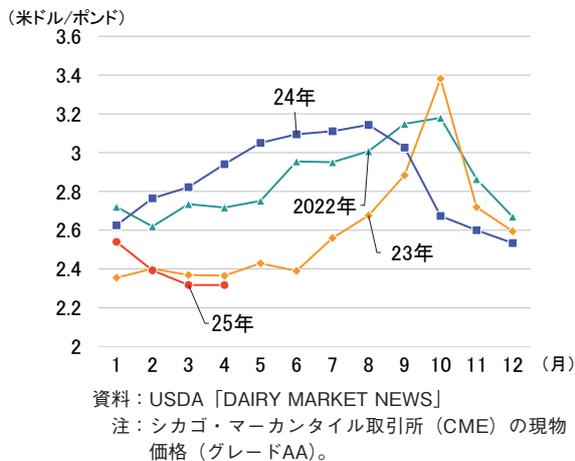
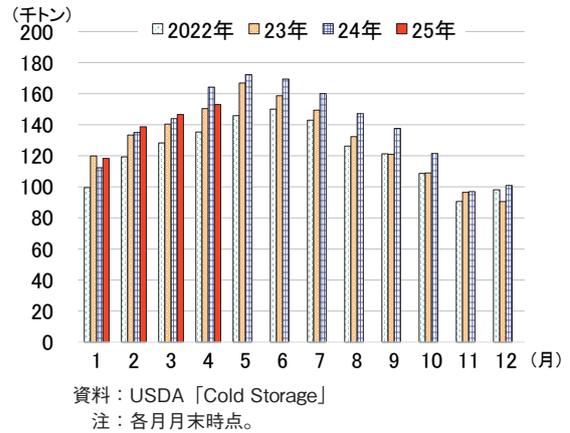


図3 バター在庫量の推移



25年3月の乳製品輸出量、ホエイやバターが増加

米国農務省経済調査局 (USDA/ERS) によると、2025年3月の乳製品輸出量は、乳脂肪分ベースでは前年同月比21.5%増と大幅に増加し、無脂肪分ベースでは同0.3%増と前年同月並みとなった。

品目別に見ると、脱脂粉乳は6万4600トン（同1.4%増）とわずかに増加した（表）。ホエイは、最大の輸出先となる中国における追加関税適用前の駆け込み需要から、1万7900トン（同8.1%増）とかなりの程度増加した。バターは、EUなどと比べて価格優位性が高いことからカナダ向けなどが増加

表 主要乳製品輸出量の推移

(単位：千トン)

品目	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～3月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	63.7	64.6	1.4%	159.8	▲15.8%
チーズ	50.0	49.3	▲1.5%	140.9	7.0%
乳糖	34.3	33.9	▲1.2%	95.4	▲7.9%
ホエイ	16.5	17.9	8.1%	48.5	5.7%
WPC	13.7	13.1	▲4.9%	32.3	▲17.1%
バター	2.3	6.1	170.8%	14.6	112.5%

資料：USDA「Dairy Data」
注：製品重量ベース。

し、6100トン（同約2.7倍）と大幅に増加した。一方、チーズは豪州向けの粉チーズ輸出量の減少などにより、4万9300トン（同1.5%減）となった。

（調査情報部 小林 大祐）

E U

高水準の乳製品価格を背景に25年第1四半期の輸出量はチーズを除き減少

25年3月の生乳出荷量は前年同月比0.4%減

欧州委員会によると、2025年3月の生乳出荷量（EU27カ国）は1288万トン（前年同月比0.4%減）とわずかに減少した（表1）。国別に見ると、ドイツ（同2.3%減）、フランス（同1.3%減）、オランダ（同1.5%減）がいずれも減少する中で、イタリア（同1.0%増）はわずかに増加し、ポーランド（同0.3%増）は前年同月並みではあるが緩やかな増産が長期的に継続している。アイルランド（同8.1%増）は、前年3月の生乳出荷量が悪天候で大きく減少したのに対し、25年

3月は平年並みの生乳出荷量が確保されたことで、かなりの程度増加した。

この結果、25年第1四半期（1～3月）の生乳出荷量は、3556万4000トン（前年同期比1.8%減）とわずかに減少した（図1）。この要因として、（1）堅調な牛肉価格や環境規制の強化などを背景として乳用経産牛の飼養頭数が減少したこと（2）うるう年であった前年に比べて搾乳日数が少なかったことが挙げられる。中でもドイツの減少は前年同期比減少分の約5割に相当し、フランスとオランダを加えた3カ国の減少で同9割を占めるなど、この3カ国の生産減が目立っている。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

国名	2024年 3月	25年 3月	前年同月比 (増減率)	25年 (1～3月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,846	2,781	▲2.3%	7,901	▲3.5%
フランス	2,144	2,115	▲1.3%	5,963	▲3.1%
イタリア	1,213	1,225	1.0%	3,447	▲0.1%
オランダ	1,210	1,192	▲1.5%	3,407	▲3.0%
ポーランド	1,171	1,174	0.3%	3,379	0.5%
アイルランド	780	842	8.1%	1,347	4.0%
スペイン	656	643	▲2.0%	1,845	▲2.6%
その他	2,913	2,908	▲0.2%	8,274	▲1.1%
合計	12,932	12,880	▲0.4%	35,564	▲1.8%

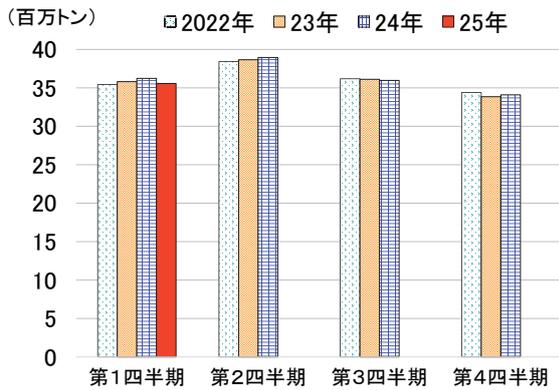
資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

図1 生乳出荷量の推移



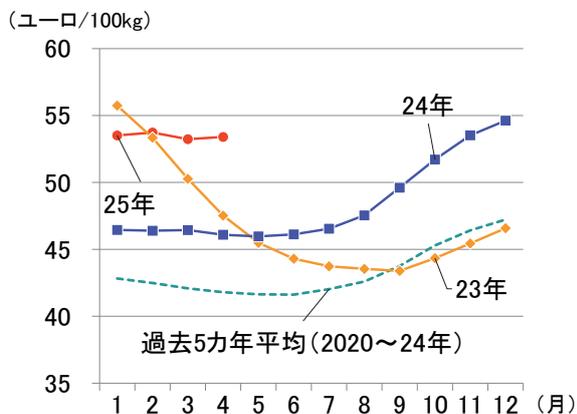
資料：欧州委員会「Milk market observatory」
 注1：速報値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

25年4月の生乳取引価格は前年同月比15.9%高

欧州委員会によると、2025年4月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.40ユーロ（1キログラム当たり88円：1ユーロ＝165.07円（注）、前年同月比15.9%高）と12カ月連続で前年同月を上回った（図2）。同価格は、高水準で推移するバターなどの乳製品価格にけん引される形で好調を維持している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移

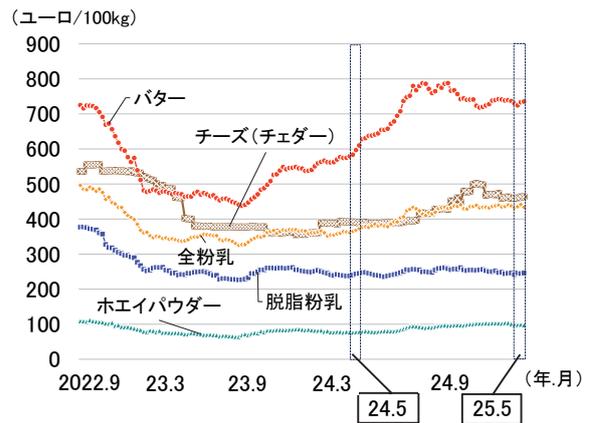


資料：欧州委員会「Milk market observatory」
 注1：直近月は推定値。
 注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

25年5月第5週のバター価格は前年同期比20.6%高

欧州委員会によると、2025年5月25日の週の製品別乳製品価格（EU27カ国の平均）は、バターが100キログラム当たり735ユーロ（1キログラム当たり1213円、前年同期比20.6%高）、チーズが同464ユーロ（同766円、同19.1%高）、全粉乳が同434ユーロ（同716円、同16.2%高）といずれも前年同期を大幅に上回り、高値を継続している。また、脱脂粉乳は同246ユーロ（同406円、同0.4%高）とわずかに上回った（図3）。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

25年第1四半期の乳製品輸出量、チーズは増加もバターなどは減少

欧州委員会によると、2025年第1四半期（1～3月）のEU域外向け乳製品輸出量は、チーズ（前年同期比3.3%増）がやや増加した一方、バター（同9.4%減）、脱脂粉乳（同0.6%減）および全粉乳（同15.6%減）はいずれも減少した（表2）。

バターや全粉乳は、価格競争力の低下や植物性油脂添加粉乳との競合により、中国、

中東およびアフリカ向け輸出量が減少した。脱脂粉乳は、自給率向上を目指し酪農部門に注力しているアルジェリア向けが大幅に減少したが、オセアニア産に比べて価格競争力で優位にあり、ナイジェリアや東南アジア向け

が大幅に増加し、全体としてわずかな減少にとどまった。

チーズ輸出の増加は、米国向けについて追加関税措置前の駆け込み輸出が寄与したとされている。

表2 主な乳製品の輸出量の推移

(単位：トン)

輸出先	バター			輸出先	脱脂粉乳		
	2024年 (1～3月)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)		24年 (1～3月)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
米国	11,313	11,458	1.3%	アルジェリア	48,547	23,691	▲51.2%
英国	10,854	10,953	0.9%	インドネシア	6,774	14,526	114.4%
中国	4,563	3,511	▲23.1%	ナイジェリア	6,592	13,307	101.9%
韓国	3,064	3,336	8.9%	ベトナム	4,276	13,001	204.0%
サウジアラビア	3,521	3,222	▲8.5%	フィリピン	12,341	11,581	▲6.2%
台湾	1,355	1,382	2.0%	エジプト	12,705	9,695	▲23.7%
アラブ首長国連邦	1,472	1,281	▲13.0%	マレーシア	5,015	7,773	55.0%
インドネシア	1,070	1,266	18.3%	サウジアラビア	10,498	7,560	▲28.0%
その他	22,247	17,490	▲21.4%	その他	80,947	85,388	5.5%
合計	59,459	53,899	▲9.4%	合計	187,695	186,522	▲0.6%

輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳		
	24年 (1～3月)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)		24年 (1～3月)	25年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
英国	99,714	105,503	5.8%	オマーン	13,309	13,190	▲0.9%
米国	31,915	34,689	8.7%	クウェート	4,709	5,307	12.7%
日本	19,748	20,016	1.4%	英国	3,468	3,827	10.4%
スイス	18,584	18,394	▲1.0%	中国	4,816	2,888	▲40.0%
韓国	10,408	16,394	57.5%	ドミニカ共和国	1,585	2,010	26.8%
ウクライナ	7,946	10,070	26.7%	セネガル	1,636	1,573	▲3.9%
サウジアラビア	10,928	9,470	▲13.3%	サウジアラビア	2,141	1,478	▲31.0%
モロッコ	5,389	6,923	28.5%	スイス	1,092	1,282	17.4%
その他	117,912	111,781	▲5.2%	その他	23,033	15,529	▲32.6%
合計	322,544	333,240	3.3%	合計	55,789	47,084	▲15.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により輸出先国の計と合計欄は一致しないことがある。

(調査情報部 渡辺 淳一)

干ばつの影響を受け生乳生産量はわずかに減少

25年4月の生乳生産量、前年同月比0.5%減

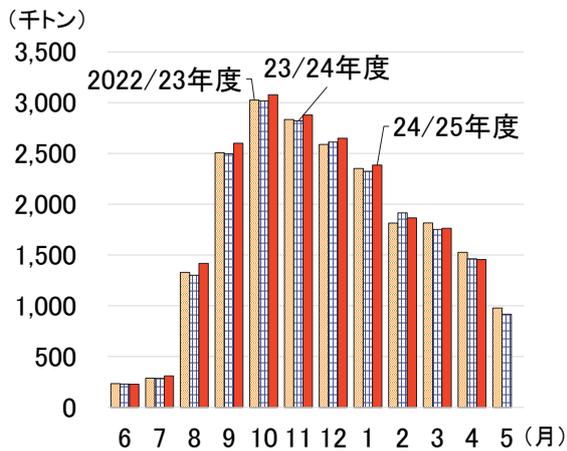
ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2025年4月の生乳生産量は145万6000トン（前年同月比0.5%減）と前年同月をわずかに下回った（図1）。この要因に

ついてニュージーランド証券取引所（NZX）は、北島のタラナキ、ワイカト地域など主要酪農地帯での干ばつの影響により、例年より約4週間早く乾乳する生産者が増加したことが4月の生乳生産量の減少につながったとしている。

25年4月の乳製品輸出量、主要4品目いずれも増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2025年4月の乳製品輸出量は、主要4品目でいずれも前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、脱脂粉乳は中国およびインドネシア向けが、全粉乳はスリランカおよびアラブ首長国連邦向けが、バターおよびバターオイルはサウジアラビア、メキシコおよびマレーシア向けが、チーズは中国および日本向けがいずれも伸びたことで輸出量が増加した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

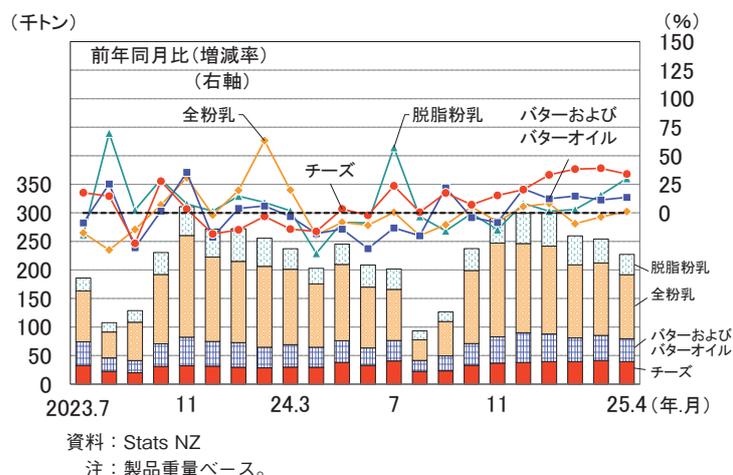
品目	2024年4月	25年4月	前年同月比(増減率)
脱脂粉乳	27,304	35,525	30.1%
全粉乳	110,953	112,241	1.2%
バターおよびバターオイル	35,057	39,819	13.6%
チーズ	29,552	39,581	33.9%

資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移

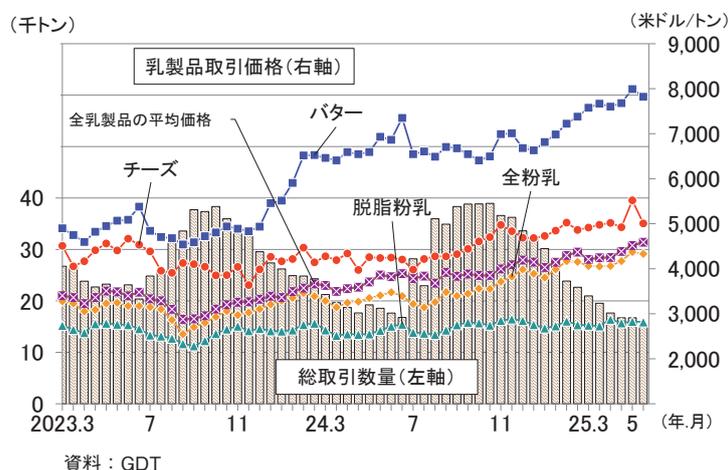


24/25年度の生産者支払乳価は10.00NZドルを維持

2025年5月20日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、北東アジアからの購入量が増加したものの、特に東南アジアや豪州からの大幅な購入増となった前回開催時（25年5月6日）からの減少を受けて、主要4品目はいずれも前回開催時を下回った（図3）。一方、バターオイルなどのその他の品目で前回開催時を上回ったことから、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4589米ドル（66万4808円、1米ドル＝144.87円^(注2)、前回比1.6%高）となった。

また、NZ乳業大手フォンテラ社は5月29日、24/25年度（6月～翌5月）の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注3) 1キログラム当たり平均10.00NZドル（880円：1NZドル＝87.96円^(注2)）に維持することを発表した。また、併せて25/26年度の当初乳価を生乳の固形分1キログラム当たり10.00NZドル（880円）にすると発表した。これについて同社のハレル最高経営責任者は、「安定した乳製品需要は見込まれているが、世界市場の不確実性などのリスクがあることを認識しており、25/26年度の当初乳価は同8.00～11.00NZドル（704～968円）の幅広い予測範囲内から設定している」とコメントした。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



これにより同社の当初乳価は、過去にない高い水準でのスタートとなっている。

(注1) グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

(注3) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

(調査情報部 田中 美宇)

中国

25年第1四半期の生乳生産量は増加、乳製品輸入量も増加

25年第1四半期の生乳生産量、1.8%増

中国国家统计局によると、2025年第1四半期（1～3月）の生乳生産量は、前年同期比1.8%増の892万トンとなった（図1）。

25年の生乳等生産量^(注1)について中国農業農村部は、4月に公表した「中国農業展望報告（2024－2034）」^(注2)の中で、25年も生乳価格の下落を受けた中小規模農場の廃業加速により乳用牛飼養頭数の減少が継続するととして、4100万トン（前年比1.5%減）とわずかに減少すると予測している。また、米国農務省海外農業局（USDA/FAS）が5月に公表した「Dairy and Products Semi-annual」（以下「レポート」という）の中で、同様の理由から25年の中国の生乳等生産量

を4150万トン（うち生乳生産量は4060万トン、同0.5%減）と予測している。

(注1) 牛由来の生乳のほか、ヤギやヤク等由来の乳を含む生産量。

(注2) 詳細については、海外情報「中国農業展望報告（2025－2034）」を公表（牛乳・乳製品編）（中国）」（https://www.aic.go.jp/chosa-c/joho01_004144.html）をご参照ください。

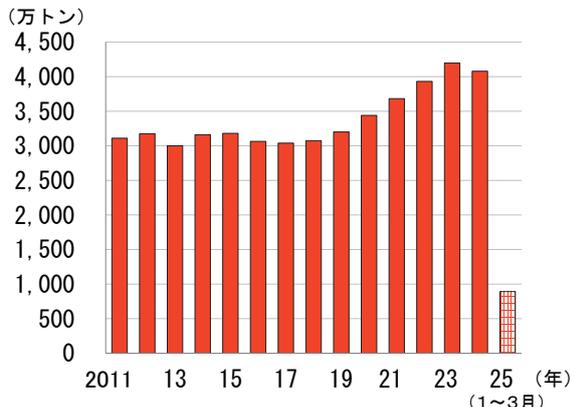
25年5月の生乳価格、前年同月比9.2%安

中国農業農村部によると、2025年5月の生乳価格は1キログラム当たり3.07元（62.35円：1元＝20.31円^(注3)、前年同月比9.2%安）と前年同月をかなりの程度下回った（図2）。直近3カ月は各月当たり0.01元（0.2円）の下落で推移するなど生乳価格の下落幅は縮小しているが、依然として安値で推移しており、酪農部門にとって厳しい状況が続いている。

(注3) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

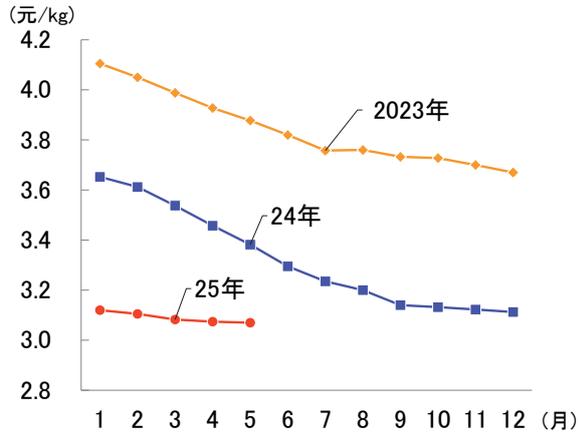
この要因について中国農業農村部は、25年5月に公表した「農産物需給動向分析月報（2025年4月）」の中で、乳用牛飼養頭数の減少は乳量の少ない牛の淘汰によるものであり、牛群の最適化が進んだことで生乳生産量は高水準を維持する一方、乳製品の消費需要が引き続き低迷していること一を挙げている。

図1 生乳生産量の推移



資料：中国国家统计局、中国乳業年鑑

図2 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

25年1～4月の乳製品輸入量、主要8品目すべてで増加

2025年1～4月の乳製品主要8品目の輸入量は、全品目で前年同期を上回った（表）。

25年の乳製品輸入量についてUSDA/FASは、5月に公表したレポートの中で、（1）全粉乳は中国国内での生乳生産量の減少と高品質製品の需要増から増加（2）脱脂粉乳は国内需要の低迷と国内生産の増加を受けて減少（3）飲用乳は国内需要の低迷と低温殺菌牛乳（注4）の国内生産量の増加を受けて減少（4）チーズは外食産業での需要増から増加（5）バターは外食産業やベーカリー業界での需要増から大幅増加（注5）（6）ホエイは輸入量の約半数を占める米国産ホエイに対する中国政府の関税措置の影響により減少—とそれぞれ予測している。

（注4）中国の低温殺菌乳は60～90度殺菌であり、日本の低温殺菌乳（63～65度殺菌）とは定義が異なる。

（注5）海外情報「中国最大のベーカリー展示会に国内主要乳製品企業などが出展（中国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004132.html）をご参照ください。

表 主な乳製品の品目別輸入量の推移

（単位：万トン）

品目	2021年	22年	23年	24年	25年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)	【参考：輸入額】
							前年同期比 (増減率)
全粉乳	84.9	70.1	43.1	41.0	18.5	2.6%	22.1%
脱脂粉乳	42.6	33.5	34.7	22.9	10.4	13.4%	23.7%
飲用乳	99.6	72.2	54.8	41.7	14.9	13.3%	14.6%
ヨーグルト	2.5	2.2	1.8	1.6	0.4	20.8%	7.1%
チーズ	17.6	14.5	17.8	17.3	6.3	14.5%	18.2%
バター	9.7	10.1	9.3	10.5	4.3	23.7%	57.2%
育児用調製粉乳	27.3	28.0	23.8	21.6	6.8	12.3%	21.7%
ホエイ	71.8	59.9	65.6	64.5	23.7	30.0%	29.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトは0403.10（2021年以前）と0403.20（22年以降）、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調製粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。なお、ヨーグルトは、22年1月1日のHS品目表の改訂により、市場実態に合わせてヨーグルトの範囲が拡大されたため、21年以前と22年以降のデータに連続性はない。

（調査情報部 平山 宗幸）

飼料穀物

世界

25/26年度は消費量および輸出量の増加から期末在庫はやや減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年5月12日、25/26年度最初の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億6498万トン（前年度比3.6%増）と前年度からやや増加し、過去最高を更新することが見込まれている。このうち、主要生産国である米国、アルゼンチン、ウクライナなどは、作付面積の増加により前年度からの生産増が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億8748万トン（同2.2%増）と前年度からわずかな増加が見込まれている。このうち、中国は1000万トン（同25.0%増）と大幅な増加が見込まれている。

消費量は、世界全体で12億7443万トン（同1.9%増）と前年度からわずかに増加し、過去最高となると見込まれ、2年連続で過去最高を更新することが見込まれる生産量をさらに上回るとされる。

輸出量は、世界全体で1億9581万トン（同3.4%増）と前年度からやや増加すると見込まれている。このうち、主要輸出国であるブラジルは据え置かれたものの、米国、アルゼンチン、ウクライナなどの主要輸出国はいずれも増加が見込まれている。

この結果、期末在庫は、消費量および輸出量の伸びが生産量および輸入量を上回ったことで、2億7784万トン（同3.3%減）とやや減少すると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2025年5月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24 年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(5月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	35.95	▲19.7%
	生産量	389.67	377.63	401.85	6.4%
	輸入量	0.72	0.64	0.64	0.0%
	消費量	321.92	321.07	324.75	1.1%
	輸出量	58.23	66.04	67.95	2.9%
	期末在庫	44.79	35.95	45.73	27.2%
ブラジル	期首在庫	10.04	8.48	5.98	▲29.5%
	生産量	119.00	130.00	131.00	0.8%
	輸入量	1.72	1.50	1.60	6.7%
	消費量	84.00	91.00	93.00	2.2%
	輸出量	38.28	43.00	43.00	0.0%
	期末在庫	8.48	5.98	2.58	▲56.9%
アルゼンチン	期首在庫	2.32	2.48	2.38	▲4.0%
	生産量	51.00	50.00	53.00	6.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	14.60	14.60	15.60	6.8%
	輸出量	36.26	35.50	37.00	4.2%
	期末在庫	2.48	2.38	2.79	17.2%
ウクライナ	期首在庫	3.00	0.64	0.31	▲51.6%
	生産量	32.50	26.80	30.50	13.8%
	輸入量	0.01	0.02	0.01	▲50.0%
	消費量	5.38	5.15	6.23	21.0%
	輸出量	29.49	22.00	24.00	9.1%
	期末在庫	0.64	0.31	0.60	93.5%
EU	期首在庫	8.02	7.31	6.33	▲13.4%
	生産量	61.95	59.31	60.00	1.2%
	輸入量	19.83	20.00	20.50	2.5%
	消費量	78.10	77.90	77.80	▲0.1%
	輸出量	4.39	2.40	3.00	25.0%
	期末在庫	7.31	6.33	6.03	▲4.7%
中国	期首在庫	206.04	211.29	198.18	▲6.2%
	生産量	288.84	294.92	295.00	0.0%
	輸入量	23.41	8.00	10.00	25.0%
	消費量	307.00	316.00	321.00	1.6%
	輸出量	0.00	0.02	0.02	0.0%
	期末在庫	211.29	198.18	182.16	▲8.1%
世界計	期首在庫	305.68	316.07	287.29	▲9.1%
	生産量	1230.52	1221.28	1264.98	3.6%
	輸入量	198.21	183.53	187.48	2.2%
	消費量	1220.13	1250.06	1274.43	1.9%
	輸出量	193.55	189.35	195.81	3.4%
	期末在庫	316.07	287.29	277.84	▲3.3%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 岡田 真希奈）

25/26年度は生産量、輸出量ともに増加見込み、大豆期末在庫は微増

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2025年5月12日、25/26年度最初の世界の大豆需給予測値を公表した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2682万トン（前年度比1.4%増）とわずかな増加が見込まれている。このうち、最大の生産国であるブラジルは1億7500万トン（同3.6%増）と、前年度に続き過去最大の生産量が見込まれている。また、これに次ぐ米国は作付面積の減少見込から1億1812万トン（同0.6%減）、アルゼンチンは4850万トン（同1.0%減）とされた。さらに中国は、大豆の生産振興策を背景に前年度をわずかに上回る2100万トン（同1.7%増）とされた。

輸入量は、世界全体で1億8682万トン（同4.9%増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の輸入国である中国は、前年度をやや上回る1億1200万トン（同3.7%増）とされた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6646万トン（同3.5%増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の消費国である中国は、搾油向け需要の回復などから前年度をやや上回る1億800万トン（同3.8%増）とされた。

輸出量は、世界全体で1億8843万トン（同4.2%増）とやや増加が見込まれている。このうち、最大の輸出国であるブラジルは生産量の増加を受けて1億1200万トン（同7.2%増）、これに次ぐ米国は生産量の減少を受けて4940万トン（同1.9%減）とされた。

この結果、期末在庫は1億2433万トン（同0.9%増）とわずかな増加が見込まれている。

今回の予測では、米国の期末在庫が市場関係者の当初予想を下回る水準とされたこともあり、USDAは米国の生産者販売価格を1ブッシェル当たり10.25米ドル（1485円、1キログラム当たり58円^{（注1）}：1米ドル＝144.87円^{（注2）}、前年度比3.0%高）と見込んでいる。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の中国の大豆輸入量9580万トンと、USDAの予測値には1620万トンの乖離^{（かいり）}がある。

なお、今回の予測は、天候条件が通常または好天と想定されているため、今後の気象状況の変化による生産量や輸出量への影響に注視が必要とされる。

（注1）1ブッシェルを約27.215キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

表 主要国の大豆需給見通し（2025年5月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度	
			(5月予測)	前年度比 (増減率)
米国				
期首在庫	7.19	9.32	9.53	2.3%
生産量	113.27	118.84	118.12	▲0.6%
輸入量	0.57	0.68	0.54	▲20.6%
消費量	62.20	65.86	67.77	2.9%
輸出量	46.13	50.35	49.40	▲1.9%
期末在庫	9.32	9.53	8.03	▲15.7%
ブラジル				
期首在庫	36.82	29.76	33.31	11.9%
生産量	154.50	169.00	175.00	3.6%
輸入量	0.87	0.15	0.15	0.0%
消費量	54.40	57.00	58.00	1.8%
輸出量	104.17	104.50	112.00	7.2%
期末在庫	29.76	33.31	34.16	2.6%
アルゼンチン				
期首在庫	17.00	24.05	24.75	2.9%
生産量	48.21	49.00	48.50	▲1.0%
輸入量	7.79	6.00	7.20	20.0%
消費量	36.58	42.60	43.00	0.9%
輸出量	5.11	4.20	4.50	7.1%
期末在庫	24.05	24.75	25.45	2.8%
中国				
期首在庫	32.34	43.31	43.96	1.5%
生産量	20.84	20.65	21.00	1.7%
輸入量	112.00	108.00	112.00	3.7%
消費量	99.00	104.00	108.00	3.8%
輸出量	0.07	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	43.31	43.96	43.86	▲0.2%
世界計				
期首在庫	101.78	115.30	123.18	6.8%
生産量	396.93	420.87	426.82	1.4%
輸入量	178.13	178.16	186.82	4.9%
消費量	331.03	354.16	366.46	3.5%
輸出量	177.69	180.87	188.43	4.2%
期末在庫	115.30	123.18	124.33	0.9%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

米国は生産量の増加などから期末在庫は大幅に増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2025年5月12日、25/26年度（9月～翌8月）最初の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

米国内生産量は、作付面積と単収の増加から158億2000万ブッシェル（4億184万トン^{（注1）}、前年度比6.4%増）と前年度からかなりの程度増加すると見込まれている。

米国内消費量は、飼料等向けの増加により127億8500万ブッシェル（3億2475万トン、同1.1%増）とわずかな増加が見込まれている。

輸出量は、他の輸出国に比べて比較的競争力のある米国産トウモロコシ価格を背景に、26億7500万ブッシェル（6795万トン、同

2.9%増）とわずかな増加が見込まれている。

この結果、期末在庫は18億ブッシェル（4572万トン、同27.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、11.6%（同2.3ポイント増）と前年度を上回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.20米ドル（608円。1キログラム当たり24円：1米ドル＝144.87円^{（注2）}、同3.4%安）と前年度からやや下落する見込みである。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2025年5月12日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
				(5月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	94.6	90.6	95.3	38.57 (百万ヘクタール)	5.2%
収穫面積	(百万エーカー)	86.5	82.9	87.4	35.37 (百万ヘクタール)	5.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	177.3	179.3	181.0	11.36 (トン/ヘクタール)	0.9%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,763	1,415	35.94 (百万トン)	▲19.7%
生産量	(百万ブッシェル)	15,341	14,867	15,820	401.84 (百万トン)	6.4%
輸入量	(百万ブッシェル)	28	25	25	0.64 (百万トン)	0.0%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,729	16,655	17,260	438.42 (百万トン)	3.6%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,673	12,640	12,785	324.75 (百万トン)	1.1%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,805	5,750	5,900	149.87 (百万トン)	2.6%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,868	6,890	6,885	174.89 (百万トン)	▲0.1%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,478	5,500	5,500	139.71 (百万トン)	0.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	2,292	2,600	2,675	67.95 (百万トン)	2.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,966	15,240	15,460	392.70 (百万トン)	1.4%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,763	1,415	1,800	45.72 (百万トン)	27.2%
期末在庫率	(%)	11.8	9.3	11.6		2.3ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.55	4.35	4.20	24.0 (円/kg)	▲3.4%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

中国

25/26年度のトウモロコシおよび大豆の需給見通し

25/26年度のトウモロコシ生産量、前年度に続き過去最高見込み

中国農業農村部は2025年5月12日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、25/26年度（10月～翌9月）最初のトウモロコシの需給見通しは表1の通りである。

生産量は、作付面積および単収の増加により、前年度に続き過去最高となる2億9616万トン（前年度比0.4%増）と見込まれている。

輸入量は、700万トン（前年度同）と見込まれている。他の作物に比べて収益性が高いとされるトウモロコシの生産量が増加する中で輸入量は減少傾向にあり、記録的な輸入量となった20/21年度（2956万トン）の

2割強程度の水準となる。

消費量は、2億9969万トン（前年度並み）と見込まれており、引き続き消費の6割以上を占める飼料向けがけん引している。

この結果、同年度のトウモロコシの過不足は346万トン（前年度比52.4%増）のプラスが見込まれている。

また、同年度の国内のトウモロコシ生産地平均卸売価格については、1トン当たり2300～2600円（4万6713円～5万2806円：1元＝20.31円^{（注）}）と、前年度の同2200～2500円（4万4682円～5万775円）を上回る水準が見込まれている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2025年5月末TTS相場。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2025年5月12日中国農業農村部公表）

区分	－単位－	2023/24年度	24/25年度	25/26年度	
			(推計値)	(5月予測)	前年度比(増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,873	0.3%
収穫面積	(千ヘクタール)	44,219	44,741	44,873	0.3%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,532	6,592	6,600	0.1%
生産量	(万トン)	28,884	29,492	29,616	0.4%
輸入量	(万トン)	2,341	700	700	0.0%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	31,225	30,192	30,316	0.4%
消費量	(万トン)	29,500	29,964	29,969	0.0%
食用向け	(万トン)	991	1,000	1,010	1.0%
飼料向け	(万トン)	19,100	19,350	19,350	0.0%
工業向け	(万トン)	8,238	8,450	8,450	0.0%
種子向け	(万トン)	193	196	196	0.0%
その他向け	(万トン)	978	968	963	▲0.5%
輸出量	(万トン)	1	1	1	－
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	29,501	29,965	29,970	0.0%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	1,724	227	346	52.4%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

25/26年度の大豆生産量は増加、輸入量は減少の見込み

2025/26年度最初の大豆の需給見通しは表2の通りである。

生産量は、作付面積および単収の増加により、2109万トン（前年度比2.1%増）と見込まれている。

輸入量は、9580万トン（同2.8%減）とわずかな減少が見込まれている。中国政府による国産の大豆生産振興政策などから輸入量は減少傾向にあり、1億トンを超える輸入量となった直近23/24年度（1億475万トン）から895万トンの減少となる。

消費量は、1億1415万トン（同0.4%減）とわずかな減少が見込まれており、引き続き搾油向けが消費の8割強を占めている。

この結果、同年度の大豆の過不足は259

万トン（同42.6%減）のプラスが見込まれている。

また、同年度の国内の大豆平均卸売価格については、1トン当たり4600～5000円（9万3426円～10万1550円）と、前年度並みの水準が見込まれている。

USDA予測値を下回るトウモロコシと大豆の輸入量

米国農務省（USDA）が2025年5月10日に公表した、25/26年度最初の世界の穀物需給予測値との比較では、同年度の中国のトウモロコシおよび大豆の輸入量はいずれもUSDAの予測値（トウモロコシ1000万トン、大豆1億1200万トン）を下回っている。このため、国際相場に影響する今後の中国の輸入動向が注目されている。

表2 中国の大豆需給見通し（2025年5月12日中国農業農村部公表）

区分	—単位—	2023/24年度	24/25年度	25/26年度	
			(推計値)	(5月予測)	前年度比(増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	10,474	10,325	10,424	1.0%
収穫面積	(千ヘクタール)	10,474	10,325	10,424	1.0%
単収	(キログラム/ヘクタール)	1,990	2,000	2,023	1.2%
生産量	(万トン)	2,084	2,065	2,109	2.1%
輸入量	(万トン)	10,475	9,860	9,580	▲2.8%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	12,559	11,925	11,689	▲2.0%
消費量	(万トン)	11,694	11,456	11,415	▲0.4%
搾油向け	(万トン)	9,750	9,490	9,420	▲0.7%
食用向け	(万トン)	1,535	1,560	1,585	1.6%
種子向け	(万トン)	89	88	89	1.1%
その他向け	(万トン)	320	318	321	0.9%
輸出量	(万トン)	7	18	15	▲16.7%
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	11,701	11,474	11,430	▲0.4%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	858	451	259	▲42.6%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 横田 徹）